

2023 年度
一般入試＜前期＞
2023 年 1 月 30 日実施分

問題と解答

国 語

国語

I 次の文章を読んで、後の問い（問1～10）に答えなさい。

私たちは日常において実に多くのことを選択しながら生きている。たとえば、私は朝起きたその瞬間からその日の服装であるとか、あるいはその日の食事のメニューであるとか、あるいはテレビでどういった番組を視聴するかとか、こうしたことをその都度自分たちで決めながら生きている。しかし、確かに私たちはこうしたことをその都度選択しながら生きているのだけれども、では私たちがそうした一つ一つの選択をどの程度までしんけん^㉗に考えながらおこなっているかというところもある。実際に、私たちは、そうした選択のほとんどをさして深く考えることもなく、なんとなく惰性でおこなっているのではないだろうか。

とはいえ、私たちが日常の振る舞いのほとんどを惰性で決めており、深く反省的に検討しながらおこなっているわけではないということが何か大きな問題なのであり、批判的に論じられなければならないことなのかといえば、もちろんそうではない。むしろ、日常のごく些細な^{ささい}ことまでいちいち ①に検討して決めなければならないとするならば、それは私たちにとって大きなふタ^㉘ンとなるであろう。したがって、そういった些細なことは、いちいち深く考えることなく、過去の体験をつうじて形成してきた習慣にしたがって決めることの方が合理的である。私たちの意識の容量には限界があるので、すべての事柄についてキン^㉙とくに意識を振り分けるのではなく、ほんとうに大切なことに対してだけ意識を集中し、そうでないことについては過去の習慣に委ねて、深く考えないようにすることが重要なのである。【I】

いいかえれば、私たちが日常をスムーズに生きていくうえで、当たり前前のことは当たり前でなければいけないのであり、だか

からこそその当たり前さが疑われるようなことがあってはならない。^(B) 当たり前のことが当たり前であるのは、それが当たり前だからではない。むしろ、私たちが自由な存在であるならば、私たちは当たり前のことを当たり前でなくすることができる。たとえば、目上のひとに対しては敬語や丁寧語で話をするのが当たり前であるでしょう。しかし、それは単に習慣としてそうになっているだけであり、(X)。しかし、もし私にあえて目上のひとに対して乱暴で粗雑な言葉づかいをし

たいと考える特別な理由がないのであれば、私は習慣にしたがって目上のひとと敬語や丁寧語で話すようにしておけば、私は自身の意識を言葉づかいの選択の適否ではなく、そのひととの会話の内容に集中させることができる。当たり前のことが当たり前であるのは、それが当たり前だからではなく、それを当たり前にしておくことにメリットがあるからなのである。

当たり前のことが当たり前であると思うこと、これはいわば世界に対する基本的な信頼だということができる。当たり前だと思っていたことが、実は当たり前ではなかったことが明らかにされたとき、私たちは混乱のただ中におかれることになるだろう。たとえば、H・ガーフィングルがおこなった有名な違背実験の結果などをみれば、こうしたことは直ちに理解される。実際に、当たり前だったはずのことが当たり前でなくなってしまうとき、私たちは何が適切な選択で、何が不適切な選択なのか、そのことを判断するための拠^(b)つて立つ前提を失ってしまうことになる。とうぜんそのような状況では、私たちは、かりに選択の自由を認められていたとしても、実質的な選択をおこなうことなどできなくなってしまう。(ii)、当たり前のことが当たり前として

て通用せず、いわば世界に対する信頼が失われてしまった状況では、私たちは（かりに形式的には自由であることを認められていたとしても）ものごとを自由に選択することが^(c)コン^(E)なんになっってしまうのである。【Ⅱ】

したがって、^(c)私たちの日常の世界は常識や慣習などによってある程度定型化されているけれども、そうした基本的な決まりごとがあることと私たちが自由であることが直ちに対立するとは限らない。むしろ、私たちが実質的に自由に生きるためにこそ、私たちの世界はある程度定型化されている必要があるのである。

このとき注意しなければならないことは、定型化された世界で成り立っている当たり前のことを「当たり前」として維持する

ことは、私個人の努力だけでは達成しえないということである。たとえば私がそれまで当たり前だと思っていたことをこれから当たり前前のままで維持しようと思っても、私以外の多数の他者がそのような決まりごとを一斉に無視する、あるいは別の決まりごとに変えてしまうといったことをしてしまえば、私一人の努力はまったく無力であり、それはもはや当たり前でなくなってしまうだろう。いわば、定型化された日常世界とは、ひとびとの間の協同的な努力によって達成されており、そして維持されるようなものである。【Ⅲ】

もちろん、「当たり前前のことを当たり前として維持しなければいけない」としても、それはつねにいえることではない。もし私たちの日常における振る舞いが一〇〇%完璧にひとびとによって協同的に達成されている決まりごとによって支配されているのだとしたら、それこそ私たちは自由でなくなってしまうだろう。だとすると、自由の問題を考えることの難しさの一つは、ここにあるといつていいかもしれない。私たちが自由であるためには、私たちは他者との間で成り立つさまざまな約束ごとを尊重する必要がある。

⑤

。このように、いっけんすると相反する二つのよう^⑥セイに同時に応えること

が必要になるのである。【Ⅳ】

けっきょく、私たちは「自由である」からといってすべてのことを自分で決める必要はないし、もしそうしなければいけないとしたら「自由である」ことは私たちにとって単なる苦痛でしかなくなってしまうだろう。大切なのは、その気になれば自分で決めることができるということであり、そしてそれがほんとうに重要なことであれば積極的に自分で決めようとするることなのである。【Ⅴ】

（数土直紀『信頼にいたらない世界』より）

（注） 違背実験……社会の規則や規範など、当たり前だと考えられていることに反するあり得ないことをして、そのひとびとの反応から社会秩序について考察しようとする実験。

問1 太線部㍿㍿㍿のカタカナで表記された部分に使用する漢字を、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

㍿ ④ コンなん	㍿ ① しんけん
5 4 3 2 1 痕 困 今 混 根	5 4 3 2 1 見 剣 検 権 険
㍿ ⑤ ようせい	㍿ ② ふたん
5 4 3 2 1 請 誓 整 制 正	5 4 3 2 1 胆 短 端 嘆 担
	㍿ ③ きんとう
	5 4 3 2 1 筋 禁 均 琴 近

問2 二重傍線部①・②はそれぞれ本文中でどのような意味で用いられているか。最も適當なものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---------|---------|--------|-------|------|---------|-------|------|-------|------|
| ① 心もとない | | | | | ② 拠って立つ | | | | |
| ③ | | | | | ④ | | | | |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 恥ずかしい | 確信が持てない | 説明できない | いい加減な | 不思議な | 言い訳に使える | すばらしい | 歴史的な | 頼りとなる | 具体的な |

問3 空欄①・②に入れるのに最も適當なものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|
| 空欄① | | | | | 空欄② | | | | |
| ③ | | | | | ④ | | | | |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 例外的 | 反省的 | 普遍的 | 形式的 | 社会的 | また | ところが | つまり | たとえば | ただし |

問4

波線部①「実際には、私たちは、そうした選択のほとんどをさして深く考えることもなく、なんとなく惰性でおこなっているのではないだろうか」とあるが、筆者は日常生活での選択のほとんどを惰性でおこなっていることをどのように考えているか。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑩

- 1 日常において服装やその日の食事のメニューを決めるなどといったことは惰性でおこなったほうが合理的であるが、それがほんとうに問題がなかったのかどうかを後にしっかりと検討することが必要である。
- 2 人間の意識の容量には限界があるため、ほんとうに大切なことに対してだけ意識を集中し、日常のごく些細な事柄についての選択を惰性でおこなうのは合理的だと言えることができる。
- 3 日常の選択を惰性でおこなうことは一般的には合理的だとされているが、意識の容量の限界はひとによってそれぞれ異なっているため、そうした選択の仕方が必ずしも正しいとは言いきれない。
- 4 私たちの日常というものはごく些細な事柄がいくつも積み重なって成り立っているものであるため、ごく些細な事柄だからといってそうした選択を惰性でおこなうことは問題である。
- 5 私たちは日常においてさまざまな選択をしながら生きているが、人間の意識の容量には限界があるため、ごく些細な事柄をふくむすべての選択を惰性でおこなったほうが合理的である。

問5

波線部⑧「当たり前前」のことが当たり前前であるのは、それが当たり前前だからではない」とあるが、筆者は「当たり前前」のことが当たり前前である」のはなぜだと述べているか。その理由として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑪

- 1 目上のひとには敬語や丁寧語で話すなどといったように、ある事柄が当たり前前だとされていると、その適否をいちいち考える必要がなく、ひとびとが生きていくうえで都合がよいから。
- 2 世の中で当たり前前だとされていることは昔から多くのひとびとが当たり前前のこととしてしたがってきたものであるため、そうしたことに反するのは社会的に許されることではないから。
- 3 日常において私たちが当たり前前のこととしてやっていることは、そうすることに何らかの特別な理由があるのではなく、それに代わって選択することのできるものがないから。
- 4 私たちが当たり前前だと思っていることは、目上のひとに対する言葉づかいのようなものを除いて、当たり前前であることに特にメリットなどはなく、なんとなくそうしているだけだから。
- 5 当たり前のことを当たり前前のこととして当たり前前のようにすることは、自分が常識をわかまえていることをひとびとに示し、社会的な信頼を得ることができるというメリットがあるから。

問6 空欄⑩に入れるのに最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑫

- 1 敬語や丁寧語で話すことが当たり前だと思ってそうした言葉を使っているひとはほとんどいない
- 2 乱暴で粗雑な言葉づかいをしたからといって目上のひとに対して失礼だなどといったことにはならない
- 3 単なる習慣であるがゆえに、私たちは乱暴で粗雑な言葉づかいをすることができなくなってしまっている
- 4 私たちがそれにしたがわなかったからといって日常生活で問題が起こるなどといったことは考えられない
- 5 その気になればいつだって私は目上のひとに対しても乱暴で粗雑な言葉づかいをすることができる

問7

波線部©「私たちの日常の世界は常識や慣習などによってある程度定型化されている」とあるが、筆者は私たちの日常の世界がどのように定型化されていると考えているか。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑬

- 1 私たちの日常の世界は、「私」のような個人ではなく、「私」以外の他者の協同的な努力によって定型化が達成され、維持されている。
- 2 私たちの日常の世界は、「私」のような個人だけでなく、多くのひとびとの協同的な努力によって定型化が達成され、維持されている。
- 3 私たちの日常の世界は、多数のひとびとの協同的な努力ではなく、「私」のような個人の努力によって定型化が達成され、維持されている。
- 4 私たちの日常の世界は、多数のひとびとの協同的な努力だけでなく、社会的な制度によって定型化が達成され、維持されている。
- 5 私たちの日常の世界は、多数のひとびとの協同的な努力ではなく、社会を支配する少数の個人によって定型化が達成され、維持されている。

問8 空欄⑤に入れるのに最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑭

- 1 つまり、私たちの自由とはさまざまな約束ごとに縛られた自由でしかない
- 2 しかし、だからといってその約束ごとにとられ過ぎてしまってもいけない
- 3 ただし、約束ごとを尊重したからといって必ずしも自由になれるわけではない
- 4 そして、それがどんなに不都合なものであってもそれを破ることは許されない
- 5 なぜなら、そうした約束ごとこそが私たちに完全な自由を与えてくれるからである

問9 本文には次の一文が抜けている。その入る位置として最も適当なものを、後の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑮

だからこそ私たちは、日常の些細なことについてはできるだけ自動的に処理できるように定型化し、そしてそのパターンを維持することに腐心するのである。

- | | |
|---|---------|
| 1 | 〔 I 〕 |
| 2 | 〔 II 〕 |
| 3 | 〔 III 〕 |
| 4 | 〔 IV 〕 |
| 5 | 〔 V 〕 |

本文の内容に最もよく合致するものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑬

- 1 常識や習慣のように当たり前だとされている決まりごとは私たちが自由に生きるために不可欠なものであるが、ほとんどのひとはそれらに惰性的にしたがっているだけであるため、私たちはそうした態度を改め、本当に自由に生きることができるよう努力していかねばならない。
- 2 世の中には常識や慣習のように当たり前だとされているさまざまな決まりごとがあり、私たちはそうした決まりごとにしたがって生きているが、そうした決まりごとがあることは必ずしも私たちの自由を奪うわけではなく、自由に生きるために必要なものとなっている。
- 3 私たちは常識や習慣のように当たり前だとされている決まりごとに当たり前のようにしたがっているが、そうした決まりごとは私たちが自由に生きることを妨げるものであるため、私たちはそうしたものにやみくもにしたがうのではなく、できるだけ「自分で決める」ようにすることが大事である。
- 4 常識や習慣という決まりごとはどんな社会にでも存在し、ほとんどのひとびとはそうした決まりごとがあっても何の不自由も感ずることなく生きてきたため、私たちは今の生き方に苦痛などを感じていないのであれば、そうした決まりごとを意識しないで自由に生きていけばよい。
- 5 世の中にはそれにしたがうことが当たり前だとされるさまざまな決まりごとがあるが、そうした決まりごとというものは自由と相反するものであるため、私たちはそうした決まりごとに惰性的にしたがうのではなく、それらをなくすために積極的に努力していく必要がある。

Ⅱ 次の文章を読んで、後の問い（問1～10）に答えなさい。

①A 何かを見たり、聞いたり、感じたりするときの心の働きを知覚という。知覚には目、耳、鼻、舌、皮膚の五つの感覚器官（五官）が働く。その動作を、見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触ると呼んでいる。そのとき働く感覚が、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚のいわゆる五感である。日常生活では特に視覚と聴覚をよく働かせる。

花を見るときは視覚が働くが、カメラで⑦サツえいするように目がとらえたことをすべて記録するのではない。声を聞くとときは聴覚を働かせるが、テープレコーダーで録音するように音声をそのまま記録しているのではない。目や耳に入ったことを無意識に取捨しながら見たり聞いたりしている。同じものを同じように見ても、人によって見たことが違う。

① 近所の家のカンきせんからいい匂いが流れてくる。匂いでその家の夕食はステーキだと分かる。それは、過去の経験からステーキを焼くとどんな匂いがするか、魚を焼く匂いとの違いを記憶し、それを整理し体系化して脳のなかに保存しているからである。この枠組みを認知心理学ではスキーマ schema と呼ぶ。②ウ ガイよう、図式というのが元来の意味である。ものを見たり考えたりするとき、スキーマが働くから、初めてのことであってもそれが何かということが分かり、予測を立てることができる。

スキーマを持つのは経験によって慣れるということである。慣れるのは必要なことで、スキーマが形成されないと、

③X 。文章を読む場合にもスキーマが働くから、そのたびに文字や文法をおぼえなくてすむ。反面、思い込みや固定観念がスキーマとして取り込まれる。

何かを見て心にとめたり、④a 会話や文章を理解するのは、主観で取捨し、それをスキーマによって解釈し、再構成した結果である。ひとことと言うと、人がものを見たり聞いたりするとき、⑤エ じゅんスイに客観的であることなどないということである。

若い女の人が走っている。なぜ走っているのか、それだけでは分からないが、時刻は午前七時、黒いスーツ姿で、走る方向の先に駅がある。そういうことが分かっていると、彼女は会社に勤めていて、通勤電車に乗ろうとしているのだと判断することが

© ビリアードボール・プロダクションというマジックがある。指のあいだに挿^{はさ}んで持てる大きさのボールを、最初、何もないところから、一個二個と、最後は八個まで増やす。その過程で奇術師が一個のボールを持った手を上着のポケットに入れ、出した手にボールが見えないと、ボールはポケットの中に入れたのだと観客は思う。実は、ポケットに手を入れたのは、ポケットからボールをもう一個取り出すためで、奇術師は先ほどのボールと合わせて手の内側に二個のボールをさりげなく隠し持っている。二個のボールは観客には奇術師の手に無いものとして認識される。それを出してみせると、何もないところから二個のボールが出るという現象が生まれる。ポケットに手を入れる動作は一種の多義図形^(注)で、ポケットに物をしまうのと、ポケットから物を取り出すのとは、外見上、同じ動作だから、観客は奇術師がボールを取り出す動作を、ボールをポケットに入れる動作だと解釈するのである。

(織田正吉『笑いのこころ ユーモアのセンス』より)

(注) 多義図形……一つの図形でありながら、複数の見え方ができる図形。

問1 太線部㍿㍿㍿のカタカナで表記された部分に使用する漢字を、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

㍿

サツえい

㍿

㍿

5 4 3 2 1
冊 察 撮 札 刷

㍿

じゅんすい

㍿

㍿

5 4 3 2 1
粹 推 睡 水 垂

㍿

カンきせん

㍿

㍿

5 4 3 2 1
喚 簡 歓 管 換

㍿

センでん

㍿

㍿

5 4 3 2 1
占 旋 千 宣 専

㍿

ガイよう

㍿

㍿

5 4 3 2 1
外 慨 害 効 概

問2 二重傍線部①・②はそれぞれ本文中でどのような意味で用いられているか。最も適当なものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

① 心にとめたり

22

- | | | | | |
|------------|----------|---------|--------|---------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| あれこれと想像したり | 忘れないでいたり | 興味を持ったり | よく考えたり | ひどく驚いたり |

② さりげなく

23

- | | | | | |
|--------------|--------|-----------|---------|-----|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| そうした様子を見せないで | わざとらしく | 見つからないように | 初めからずっと | 必死に |

問3 空欄①・②に入れるのに最も適当なものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

空欄①

24

- | | | | | |
|-------|-----|-----|-----|-----|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| したがって | さらに | だから | しかし | つまり |

空欄②

25

- | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 致命的 | 短絡的 | 合理的 | 客観的 | 楽観的 |

問4

波線部①「何かを見たり、聞いたり、感じたりするときの心の働きを知覚という」とあるが、人の知覚にはどのような特徴があるか。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

②6

- 1 人の五感の働き方は同じであるが、同じものを同じように見たり聞いたりしたとしても、この世の中には全く同じものは存在しないため、そうしたものについての知覚は人によってそれぞれ違ったものとなってしまう。
- 2 人は何かを見たり、聞いたり、感じたりするときに五感を働かせるが、五感の働きは誰でも同じであるため、同じものを同じように見たり聞いたりすると、必ずしも全員ではないものの、ほとんどの人の知覚はほぼ同じものとなる。
- 3 人は五感を働かせてものを見たり聞いたりするが、対象となるものをそのまますべてとらえるのではなく無意識のうちに取捨しているため、同じものを同じように見たり聞いたりしても、その知覚は人によってそれぞれ違ったものとなる。
- 4 人は自分の身の周りにあるものを視覚や聴覚などといった五感を働かせてとらえているが、あるものに対してどの感覚を働かせるかは人によって違っているため、その知覚も人によってそれぞれ違ったものとなってしまう。
- 5 人はものを見るときには視覚、音を聞くとときには聴覚といったように五感を働かせるが、五感というものは人が意識しないと働かないものであるため、五感を働かせた結果としての知覚も人によってそれぞれ違ったものとなる。

問5 空欄⑩に入れるのに最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

27

- 1 たとえばある道具の使い方間違っておぼえてしまうと、正しい使い方に直すことができなくなる
- 2 親しい友達に連絡する方法はいくつもあるのに、どんなときでも電子メールばかり使ってしまう
- 3 ハサミのように単純な仕組みの道具でも、その使い方を習得するために長い時間が必要となる
- 4 自分が思っていることを他人に伝えようとするときに、なんともまわりくどい言い方になってしまう
- 5 自転車に乗るたびにハンドルの操作や重心の取り方など、一から練習しなければならなくなる

問6

波線部⑥「走っている女性が白いウェディング・ドレスを着ている」とあるが、このような状況に遭遇した人についての説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

②8

- 1 人はふつう経験をもとにして推論するが、「白いウェディング・ドレスを着た女性が走っている」などといった特殊なできごとに遭遇するとすぐにスキーマが働いて、何が起こっているかを正しく推論することができる。
- 2 人は常識ではあり得ないようなおかしなできごとを目にするとスキーマが働かなくなってしまうため、「駅に向かって走っている女性」を見たときのように正しい推論をすることもできなくなってしまう。
- 3 人はこれまでに経験したことのないようなできごとに遭遇してもスキーマを働かせて何が起こっているかを推論することができるが、そうした推論が必ずしも正しいわけではなく、間違いである可能性も否定できない。
- 4 人は日常生活の中でさまざまなできごとについてスキーマを働かせて推論しているが、明らかにふつうではないできごとについてはスキーマを働かせなくても何が起こっているかをおおよそ推論することができる。
- 5 人はどのような状況であつても推論することはできるが、過去に経験したことのないできごとの推論はほとんどが間違っているにもかかわらず、自分ではそれが絶対に正しいと思い込んでしまうことが多い。

問7 空欄⑤に入れるのに最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

29

- 1 そう思いがちだが、相手がそういう態度を見せたことにはさまざまな理由が考えられる
- 2 そう思いがちだが、人間関係に関するこうした推測というものはそのほとんどが間違っている
- 3 そう思いがちだが、その理由を自分一人であれこれ考えているだけでは問題を解決することはできない
- 4 そう思いがちだが、自分にそうした心当たりがあるならば素直に反省することが大切である
- 5 そう思いがちだが、こうした行き違いは日常生活ではよくあることなので特に気にする必要はない

問8

波線部©「ビリアードボール・プロダクションというマジックがある」とあるが、このマジックの例から人間の解釈についてどのようなことが分かるか。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

30

- 1 人は日常生活の中でさまざまな物事についてさまざまな解釈をしているが、そうした解釈の大半は間違っただけのこと。
- 2 人は何らかの情報をもとにしていったん間違った解釈をしてしまうと、それを後から正しいものに修正することはできないということ。
- 3 人は付随する情報が少ない状況の中で何らかの情報を得ると、それをもとにして間違った解釈をしてしまうことがあるということ。
- 4 人は物事の解釈を間違ってしまうことがしばしばあるが、そうした間違いをしたとしても日常生活では特に問題ないということ。
- 5 人はあるできごとについて多くの情報を得れば得るほど、そのできごとについての解釈を間違ってしまう可能性が高いということ。

問9 本文には次の一文が抜けている。その入る位置として最も適当なものを、後の1～5のうちから一つ選びなさい。

③1

理由を相手に求めがちだが、原因はこちらにあるのかもしれない。

5	4	3	2	1
〔	〔	〔	〔	〔
V	IV	III	II	I
〕	〕	〕	〕	〕

本文の内容に最もよく合致するものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

③2

1 人間が日常生活を営むうえでスキーマは必ずしも必要なものではないが、スキーマを意識的に働かせることができるようになると、それまで経験したことがないようなできごとが起こったとしても、スキーマを働かせてそれに適切に対処することができる。

2 人間はスキーマが働くことによって日常生活を円滑に営むことができるが、スキーマは決して客観的なものではなく、そのなかに思い込みや固定観念が取り込まれてしまうことがあるため、スキーマが働くことが必ずしもよい結果をもたらすとは限らない。

3 人間が日常生活を営むうえで必要不可欠なスキーマはいつでも都合のよい働きをするわけではなく、間違った推測や判断の原因となってしまうことも多いが、人間がスキーマの働きをつねに意識することによって、そうした問題が起こるのを回避することができる。

4 人間がものを見たり考えたりするときに大きな影響を与えるスキーマというものにはさまざまな経験を通して自然に形成されるものであるが、スキーマはいったん形成されるとそれが変化することはないため、どんなに気をつけてもスキーマが原因となる間違いを避けることは難しい。

5 人間が日常生活の中でしばしば間違った推測や判断をしてしまうのはスキーマが働くことが原因であるため、そうした問題が起こらないようにするためには、自分の中にある思い込みや固定観念を捨て、スキーマができるだけ働かないようにすることが大切である。

〔問題終了〕

2023年度 一般入試＜前期＞解答 1月30日実施分

国語	
解答番号	解答
①	4
②	1
③	3
④	4
⑤	5
⑥	4
⑦	2
⑧	4
⑨	3
⑩	2
⑪	1
⑫	5
⑬	2
⑭	2
⑮	1
⑯	2
⑰	3
⑱	1
⑲	1
⑳	5
㉑	2
㉒	4
㉓	5
㉔	2
㉕	4
㉖	3
㉗	5
㉘	3
㉙	1
㉚	3
㉛	4
㉜	2